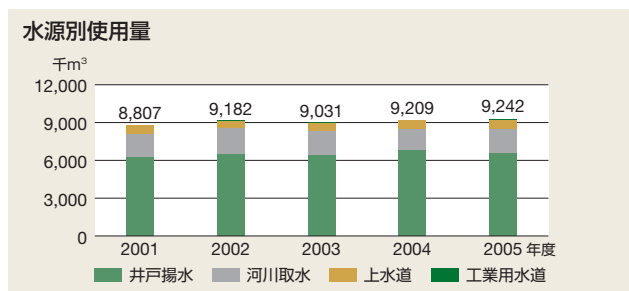


水、大気、土壌などへの対策

横浜ゴムでは、水、大気、土壌、ダイオキシン類などに関し、様々な対策をとっています。特に土壌汚染については、地下水汚染を継続的に監視するため、2006年度中に国内全生産事業所に観測井戸を設置する計画です。

水の有効利用

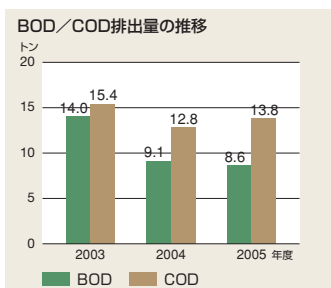
多量の冷却水を使うため、循環使用など有効利用しています。



水質・大気の保全 (BOD/COD排出量)

生産事業所から排出される水や大気は、排水口、ボイラー、焼却炉などで定期的に測定を行い監視しています。

BOD: 生物化学的酸素消費(要求)量。
COD: 化学的酸素消費(要求)量。BODは河川、CODは海や湖水の水質汚染を測る指標。値が高いほど汚染が進んでいます。



土壌の保全と有害物質の使用履歴

国内全生産事業所で、環境基準値に定めのある物質の使用履歴と汚染の有無を自主的に調査してきました。地下水汚染調査と継続的な監視のため観測井戸設置を2006年度中に全生産事業所で実施します。現在地下水汚染や敷地外への流出はありません。

有害物質の使用履歴と対策

対象生産事業所	有害物質の使用履歴	土壌汚染と地下水調査結果
平塚製造所 (含むマタイ工場)	土壌汚染対策法上の有害物質チウラム、鉛、六価クロム、フッ素、トリクロロエチレン、ベンゼン	旧廃棄物置き場で地下水の塩素系有機溶剤濃度が環境基準を上回っていたため、浄化処理を実施中。工場敷地外への地下水はすべて環境基準を下回っている。チウラム、鉛などによる地下水の汚染なし
三重工場 三島工場 新城工場	チウラム以外なし	地下水の汚染なし。三島、新城工場の観測井戸を増設し監視継続
尾道工場	なし	地下水汚染なし。敷地内に観測井戸を設置し滞留水を監視
茨城工場	鉛、トリクロロエチレン	地下水汚染なし。今年度観測井戸を設置し監視を継続
平塚東工場	鉛、カドミウム、ジクロロメタン、トリクロロエタン、四塩化炭素	
長野工場	鉛、六価クロム、トリクロロエチレン	



トリクロロエチレンの抜気浄化(平塚製造所)

ダイオキシン類対策

廃棄物焼却炉を持つ三重工場では、焼却炉排ガス、排水、煤じん、焼却灰中のダイオキシン類濃度を定期的に(年1回)、測定・監視しています。

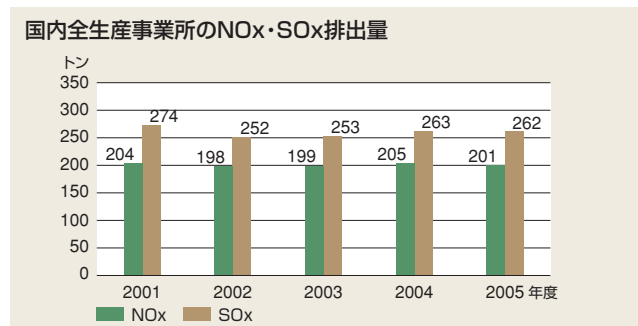
三重工場ダイオキシン測定データ

項目	規制値	測定値
排ガス (ng-TEQ/m³N)	10	0.017
排水水 (pg-TEQ/L)	10	3.0
焼却残渣 (ng-TEQ/g)	3	0
飛灰 (ng-TEQ/g)	3	0.37

2005年度

NOx/SOx排出量の削減

2005年度、NOx排出量は2001年度比2%減、SOx排出量は同5%減となりました。共に排出量の目標管理を行っており、2010年までに2001年度NOx比5%、SOx50%以上削減する計画です。



臭気への対策

タイヤ工場では、天然ゴムの混練工程、タイヤコードのディッピング工程などで臭いが発生するため、臭いの少ない材料への変更、加工の低温化、設備の密閉化などを行っています。